



(撮影:みや こうせい)

ユーリー・ノルシュテイン Yuriy·Norshteyn

国	籍	ロシア
生	年	1941年
職	業	アニメーション作家

選評:梅原 猛

アニメーション作家のユーリー・ノルシュテイン氏は端倪すべからざる芸術家である。氏は動物などを主人公とする短いアニメーションを作るが、それは現代世界への鋭い風刺を盛り込みつつ、人間愛にあふれた作品である。そこに含まれた寓意は一度見るだけでは容易に分からず、二度、三度と見ることによってますます深い寓意が理解される。氏は、子どものころの夢をいつまでも見続けている詩人でありながら、ゴーゴリの小説やバッハの音楽を深く理解する哲学者でもある。今回、このような国際的芸術家を受賞者に選ぶことができたのは幸甚である。

作家略歴

1941	ペンザ州ガラブニーシチェンスキー地区アンドレーフカ村で生まれる (第二次世界大戦戦時下の疎開先で生まれ、1943年にモスクワに戻る)
1959-62	サユーズムリトフィルム撮影所の付属コースでアニメーション美術を学ぶ
1961-81	サユーズムリトフィルムのアニメーターとなり、ロマン・ダヴィドフ監督の「生きている数字」やレオニード・アマリク監督の「ふたつの物語」、イワン・イワノフ＝ワノー監督の「左利き」にアニメーターとして参加
1967	アルカージー・チューリンとの共同監督でアニメーション「25日-最初の日」に着手
1971	イワノフ＝ワノーとの共同監督として「ケルジェネツの戦い」を制作
1973	「キツネとウサギ」を監督
1974	「アオサギとツル」を監督
1975	「霧の中のハリネズミ」を監督
1979	「話の話」を監督 「キツネとウサギ」「アオサギとツル」「霧の中のハリネズミ」に対して、ソ連邦国家賞を受賞
1981	ゴーゴリ原作の「外套」に着手(現在も継続中)
1984	アメリカの映画芸術アカデミーと国際アニメーションフィルム協会との共催による国際アンケートによって「話の話」が歴史上、世界最高のアニメーションに選ばれる。
1989	アンドレイ・タルコフスキー記念賞 受賞
1991	ロシア国営テレビ番組「おやすみなさいこどもたち」のイントロ&エンディング・アニメーションを監督 フランス芸術文化勲章受章
1996	ロシア人民芸術家の称号を授与される
2003	「冬の日」発句 (アニメーション作家35名による合作)を監督 「ユーリー・ノルシュテイン展～ノルシュテインとヤールブゾワの仕事～」 (三鷹の森ジブリ美術館・東京都)
2004	旭日小綬章勲章 受章 (日本)
2005	「話の話展」(プーキン美術館)「冬の日展」(モスクワ東洋美術館)
2006-07	「ノルシュテイン絵本づくり展」(ちひろ美術館・東京、安曇野ちひろ美術館)
2009	「外套 原画展」(apmg/武蔵野美術大学内)
2010-11	「話の話ーロシア・アニメーションの巨匠 ノルシュテイン&ヤールブゾワ展」 (神奈川県立近代美術館・神奈川県、高知県美術館、三菱地所アレティアム・福岡県、足利市立美術館・栃木県)



映画のためのエスキース「霧の中のハリネズミ」1975年